

2022年4月度 高島屋店頭売上速報

■ 国内百貨店売上高 (前年比 単位:%)

2022年3月から「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、店頭売上速報で開示する国内百貨店売上高につきましては、従来の基準(総売上高)で開示いたします。

大 阪 店	+40.8	立 川 店	+20.9
堺 店	+18.1	大 宮 店	+2.6
京 都 店 ※1	+26.1	柏 店 ※1	+4.6
泉 北 店	+16.5	(株)高島屋各店計	+23.8
日 本 橋 店	+23.3	岡 山 高 島 屋	+4.3
横 浜 店 ※1	+10.0	岐 阜 高 島 屋	+10.6
新 宿 店	+41.3	高 崎 高 島 屋	+13.9
玉 川 店	+24.1	(株)高島屋各店 および 国内百貨店子会社計	+22.6

※1. 京都店は「洛西店」、横浜店は「タカシマヤ フードメゾン 新横浜店」、柏店は「タカシマヤ フードメゾン おおたかの森店」の売上高をそれぞれ含みます。

■ 概況

○ 4月度の店頭売上は、前年度の一部店舗における生活必需品を除いた休業の反動や、新型コロナウイルス感染者数の減少傾向による外出頻度の増加に加え、高額品が引き続き好調に推移したことから、前年実績を上回りました。

店頭売上	前年比 +22.6%	2019年比 △11.0%
免税売上	前年比 +77.4%	2019年比 △75.9%
免税を除いた店頭売上	前年比 +21.6%	2019年比 △3.9%

○ 店舗別売上では、全店で前年実績を上回りました。

○ 商品別売上(当社分類による15店舗ベース)では、紳士服、紳士雑貨、婦人服、婦人雑貨、特選、宝飾品、呉服、子供・情報&ホビー、スポーツ、リビング、美術、食料品、食堂が前年実績を上回りました。

※前年度の店舗別休業日数(生活必需品売場を除く):大阪店、堺店、京都店、泉北店、日本橋店、新宿店、玉川店、立川店 各6日間